

2019年11月9日(土)～10日(日) in 諏訪

2019年度長野県教育研究集会のご案内

～いっしょに話ませんか 子ども、学校、教育を～

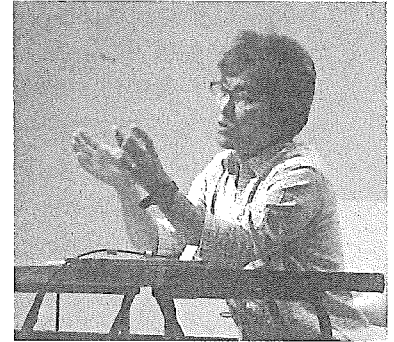
記念講演は、渡辺雅之さんです

「学校と教育を語ろう『道徳』って何?!
—すべての人と共に暮らす社会を目指して—

道徳教育が小・中学校へ導入され、高校でも2022年から本格実施になります。渡辺さんは「道徳科が子どもと世界を切り離し、問題を個人の心の問題にすり替え、道徳性をルールやマナーといった外側の振る舞いに押し込めてしまうならば、それは必要ないばかりか、有害ですらある。」と述べています。(『人間と教育』2019 No.101)

渡辺さんはヘイトスピーチ、レイシズム等に対し発言を続け、異文化理解と共生の大切さを社会へ発信する、行動する研究者です。不正に対するたたかいなしに、公正や正義の実現はなく、「異質な他者と共に生きる術」を得て、「異なる他者と共に生きることを阻もうとする力とたたかうこと」が必要だと主張しています。

道徳性の教育は平和教育であり、私たちが教育実践において「国家の道徳」から「市民の道徳」へとベクトルを転換することがどのような意味を持つのかお話し頂きます。ご期待ください。



【プロフィール】

大東文化大教職課程センター教授 全国生活指導研究協議会(研究全国委員) 民主教育研究所(道徳部会) 福島県生まれ。埼玉県で中学校教師として22年間勤務。いじめ非行問題などに取り組み、3年B組金八先生(第4シリーズ)にいじめを取り上げた実践がドラマ化される。現在は大学で教員を目指す学生たちの指導にあたりながら、全国で精力的に講演活動を展開している。専門は「生活指導」「道徳教育」「多文化共生教育」など。反差別カウンターや国会前抗議アクションなど路上に出る研究者でもある。

【主な著書】

『「道徳教育」のベクトルを変える～その理論と指導法』高文研、『いじめレイシズムを乗り越える道徳教育(単)』同、『どうなってるんだろう?子どもの法律(共)1,2』同、『ヒューマンライツ～人権を巡る旅へ(共)』ころから出版

ごあいさつ

2019年度県教研集会委員長 宮田 弘則



今、教職員の超過勤務の改善は喫緊の課題であり、残業は当たり前、休日出勤も当たり前という状況です。学習指導要領の改訂にともなう負担や、全国学テ(全国学力・学習状況調査)の平均点で一喜一憂する学力向上策が、超過勤務に一層拍車をかけている現状です。

昨年度の県教研の全体講演会でお招きした教育研究者の鈴木大裕さんは、「1983年、アメリカの公教育は危機的状況に陥っていた。そこで公教育の格差是正を図るため、国は教育を競争原理に委ね、市場化することにした。テストと結果責任を主体とした教育の徹底管理が行われ、義務教育の中で序列化が正当化された」と述べ、元アメリカ教育指導カリキュラム開発連盟会長アーサー・コスタ氏の言葉を紹介しました。「教育的に大事で測るのが困難だったものは、教育的に大事ではないが測定しやすいものと置き換えられてしまった。だから今、我々は、学ぶ価値のないものをどれだけ上手に教えたかを測定しているのだ」と。

私たちは、忙しさの中に埋没してしまわないよう、これらの対抗軸として、すべての子どもたちに豊かな人間形成を保障する教育をすすめる必要があります。

子ども、学校、教育について率直に語り合い、保護者や地域の皆さんとともに県教研をつくり上げることの意義は、かつてないほど大きくなっています。多くのみなさんの参加を心から呼びかけます。

全体会場 諏訪市文化センター
分科会場 諏訪南中学校
諏訪実業高校

2019 長野県教育研究集会ニュース

第1号

発行/長野県教職員組合連絡協議会 2019年6月26日
事務局/長野県高等学校教職員組合 TEL 026-234-2216

分科会参加に向けて 用意をはじめましょう

第1分科会

国語教育

どんな授業をしたら子どもたちは「わかった」という反応をしてくれるだろう——先生方は日々、そんな思いを抱きながら教壇に立たれていることと拝察します。時にはうまくいかなかったことも、もちろんうまくいったこともあるはず。県教研ではそんな日々の実践を率直に気軽に交流しませんか？ また、県教研はそうした交流ができる場でもあります。

昨年も様々なレポートが寄せられ、参加者同士で意見を交わしながら深めていく刺激的な2日間となりました。ここ数年、多忙化がさらに激しさを増し、なかなか時間が取れない中ですが、全日程参加でなくて構いませんので、お時間のある時に足を運んでいただければと思います。

第2分科会

外国語活動・外国語教育

～いっしょに話しましょう！ 学びあいましょう！～

☆小学校から大学まで、校種を越えてみんなでつくる分科会です

☆日々の実践からアカデミックな最新英語教育事情まで

☆何でも学べる、話し合える「場」です

☆気楽に参加出来る研究会です（部分参加大歓迎！）

◎今さら聞けない(!?) ことも話せます！◎

例えば…

- ・教科書はどう使ったらうまくいくの？
- ・生徒が音読をしたくなる裏技ってある？
- ・ワークシートの達人になるにはどうする？
- ・生徒をひきつけるコツはなに？

◎レポートをお待ちしています◎

～小中高大、それぞれの段階、課題に合わせたテーマ～

- ① 小学校の「外国語活動」の実践
- ② 中学校の取り組み
- ③ 高校の授業、「高大接続改革」への対応
- ④ 大学の外国語教育事情

⇒⇒⇒レポートがなくても気軽に手ぶらでどうぞ!!

第3分科会

社会科教育

「子どもたちの目が輝く楽しい授業がしたい！」
「明日の授業に使える教材や情報がほしい！」
「いま社会科で教えなくちゃいけないことは何か。学校種をこえて語り合いたい！」

そんな思いに応える分科会を目指しています。

子どもたちは、社会科での学びと自らの生活体験をつなげて「世の中」への眼差しを獲得していきます。私たちの授業が、どんな切り口で子どもたちと社会を出会わせ、どんな歴史観や世界観を語るのかが、いつも問われているのだと思います。

子どもたちと一緒に「本当のこと」を学び、「生きるに値する未来」を語る社会科は、きっと面白い。そんな実践をつくっていくために、みんなで学びましょう。

レポート発表はもちろん、「手ぶら参加」や「聞いただけ参加」も大歓迎です！ 諏訪でお会いしましょう！

第4分科会

算数・数学教育

楽しい算数・数学教育を創ろう！

◎「今、行われている実践は、楽しいものになっていますか？」

多くの先生方が楽しく、わかりやすい授業を目指していることでしょう。中には、グループ学習をすれば良いと考えてしまう傾向も見受けられますが、形だけのグループ学習では、内容の薄い授業になってしまいます。これを克服するには、教材研究が欠かせません。

◎「みなさんが持っている自慢の教材・教具を持ち寄りませんか？」

基本的な内容を納得して理解する。これに優る楽しい学習はありません。みなさんの実践を交流して、何か一つでも明日のヒントになるおみやげを持ち帰れる分科会を目指しています。

・グループ学習を成立させる課題や疑問を持たせるには、どうすれば良いか。

・基本的な事項を豊かに学ぶためのヒントと実践。

・ICTの活用はどうやればいいのか？
こんな疑問にお応えします。

第21分科会

学校給食と食教育

いま、子どもたちをとりまく状況は様々な問題を抱えています。心と体をすこやかに育むには「食」は原点であるはずです。

子どもたちが未来を生きていくため、学校で、給食で、その他様々な場面で何ができるのか、何をすることが大切なのか、「食」のあり方を探りつつ、様々な実践を通して学び合ひましょう。

栄養教職員の方はもちろん、学級担任や保護者の皆様など幅広く様々な立場の方にご参加いただき、「食」についてより深く話すことができる会にしたいと思います。また、実践発表から、日々の取り組みや悩みなども話せる場にしたいと思います。たくさんの方のみなさんのご参加をお待ちしています。

第22分科会

環境・公害と教育

昨年の県教研のレポートは次の通りです。

- ① こどもの発達障害の原因 「こどもの園」
- ② 小学校におけるSDGsの実践
- ③ 共同研究者 友川幸先生（信州大） 曾 貧先生（一橋大）のミニ講義
- ④ 遠山郷エコ・ジオパーク Field Study の取り組みについて
- ⑤ 農業教育と環境教育の実践
- ⑥ 千曲市及び東信地域のエコ製品・自然環境新しい特産品に学ぶ+ a
- ⑦ 生徒ともに学ぶ

市民の方の発表から小学校から大学までの実践報告あります、昨年の参加者からは「どんなことを話しているのかな……という興味関心で参加、農業高校工業高校での実践は超楽しいです。最後に学力って何ですかね。多様な生き方あることを子ども達に知らせたいです」というような内容の感想をいただいております。

みなさまのご参加をお待ちしております。

第23分科会

現代文化・図書館教育

変わってゆくこと。変わらないこと。さまざまな情報の渦の中から何を選び、どう行動するか、それこそが自分を育むこと。私たちは今の時代を生きる青少年に、何を伝えることができるだろうか。

こんなレポートをお待ちしています。

- ・文化祭のとりくみ、生徒会活動の状況
- ・SNS、ツイッター等、子どもたちをとりまく新しいコミュニケーション手段についての考察
- ・地域との関わりを持った実践、子どもたちの文化活動
- ・メディアリテラシーの実践、研究
- ・クラス運営や文化祭に図書館がどう関わったか
- ・図書館を利用した授業のとりくみ
- ・図書係、委員会の活動

子どもたち、地域の皆様のご参加も歓迎いたします。

第24分科会

不登校

あなたの学校やクラスに、学校に行けなかったり、教室に入れなかったりしている子はいませんか？

お母さん、お父さん、「学校に行きたくない」と言う我が子を目の前にして、どうしていいかわからず悩んでいませんか？

それぞれの思いや悩みを語り、聴きあいながら心の重荷をちょっと軽くできたらいいなあと思います。

1日目は学校現場でのとりくみを持ち寄り、どう「不登校」（いじめも）にとりくんでいったら良いのかを話し合います。子どもに寄り添った実践が例年報告されています。日ごろの実践上の悩みも含め学び合ひましょう。2日目は、不登校の経験者の話や学校・フリースクール・親の会・不登校支援団体等の実践を持ち寄り、多角的に話し合います。また、地域の居場所・フリースクール・親の会や進学などについての情報交換も行います。

たくさんの方のみなさんのご参加をお待ちしています。

第25分科会

高校改革・入試制度

いじめ等、学校問題に起因する十代の少年・少女の自殺が連日報道されています。今次改訂された指導要領は小学校からの英語導入、高校にいたるまでの道徳教育の強化・徹底をうたっていますが、学校（児童・生徒・教職員）に積み上がる深刻な課題や願いにこたえるものではありません。

先般公表された高校入試の改革案は、これまで幾度か変更されてきた中で最悪と言わざるを得ません。選抜制度についての必須要件であるはずの①生徒・保護者（当事者）にとってのわかりやすさ②公平性③納得性（説得性）をいずれも欠いているからです。すでに中学校、高校現場のいずれからも不安と怒りの声が上がっています。本分科会ではこの問題を重点的に研究、検討したいと思います。中・高校生、保護者の参加を広く呼びかけます。併せて、進行中の高校改革（統廃合問題含む）についても、全国の動向とともに報告、議論を深める予定です。

特設分科会

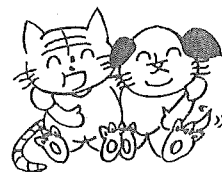
テーマ

「子どもの主体性を
育むためにできること」

どうしたら子どもたちの主体的な活動を保障できるのか、周りの大人にできる事は何か、実際に地域の中で主体的に活動をしている高校生たちの発表を聞き、当事者とのディスカッションを通してその方法を探っていきたいと思います。

市民団体の方が企画・運営します。

どなたでも参加
できます。



多くの皆さんが参加し、語り合う教研集会をめざして

☆レポーターでなくても、どなたでも参加できます。

事前申し込みをしなくても、当日受付で記名していただければOK！保護者や一般の皆さんの参加も大歓迎。

☆特設分科会「教育カフェ ～いま、学校や教育はどうなっているのか～」(仮称)

諏訪市の市民団体の皆さんと一っしょに語り合いましょう。

☆成功レポートでなくてもOK！

失敗したこと、困っていること、悩んでいることも出し合おう。若い皆さんのレポート大歓迎。

☆グループでの共同レポート作成もOK！

学年、教科会、サークル、仲間同士などで。芸術教科レポート(図工・美術・音楽・書道)募集！生徒作品をご紹介下さい。

☆昼休みに『実践交流広場』をやります。

実践紹介、自作教材展示、作品展示、物品販売などを自由にできます。分科会の中だけではもったいない！みんなに紹介したり、交流したりしましょう。

☆『青年レポーターを囲むつどい』を今年も開催します。

アットホームな雰囲気の中で、実践を語り交流しましょう。

日程・会場

11月9日(土)

◇全体集会

9:30～12:15

会場：諏訪市文化センター

○アトラクション

○開会行事

○記念講演

講師：渡辺雅之さん

◇分科会1日目

13:30～17:00

会場：諏訪南中学校

諏訪実業高校

11月10日(日)

◇分科会2日目

9:00～15:30

会場：諏訪南中学校

諏訪実業高校